

入 試 年度	2026 年度	入 試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2026 年 2 月 24 日
課程	博士前期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	史学専攻日本史学 専修
入 試 方式	外国人留学生入学試験		試験科目	日本語による専門科目	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					
【解答例（採点時の観点）】					
大問〔Ⅰ〕					
受験者が研究している時代を中心に日本の土地制度について要約的に記述する小論文問題です。採点時の観点としては、特定の時代の土地制度の特徴と変遷が把握されているのかを見ます。例えば、前近代であれば公地公民制から始まって荘園制・荘園公領制への変遷、武士による領域支配の拡大と太閤検地を経て近世の石高制への変遷、近現代であれば地租改正を経て近代的所有を前提とする地主・小作関係への変遷、そして戦後の農地改革を経て資本主義的な土地制度・税制への変遷など、主要な土地制度についてその特徴・変遷、制度と実態とのずれなどについて簡潔に記されているか、自分が研究する時代の前後の時期にも目配りができているかに焦点を当てて採点します。					
大問〔Ⅱ〕					
受験者がこれまでに読んで重要だと思う研究書・論文について要約的に述べ、今後の自分の研究計画について記述する小論文問題です。採点時の観点としては、自分の研究にとって重要だと思う先行研究の内容を正しく理解しているか、その研究書・論文の学界における位置付けを理解しているかを見ます。そして、自分の研究がどのような先行研究に依拠しているのか、あるいはどのような学説を批判しようとしているのかを自覚しつつ、自分の研究を発展させる方向性についてどのように構想しているのかに焦点を当てて採点します。					
【出題の意図】					
大問〔Ⅰ〕					
土地制度は、国家統治あるいは地域における支配の土台にあたるものであり、歴史学研究に取り組む際に必ずその基本構造を押さえておく必要があります。また、制度の変遷を把握することで時代の変化を認識しているか、自分が主として研究する時代だけでなく、その前後の時代への目配りがされているか、研究者としての歴史認識の深さと広さを見極めるための問題となっています。					

大問〔Ⅱ〕

先行研究の整理は、研究者として自分の立脚点を明確にする上で極めて重要なことであり、研究史上における自らの研究の位置を自覚しているか、そしてその上で、どのような先行研究に依拠しつつ、あるいはどのような先行研究を批判しつつ自らの研究を発展させていこうとしているのか、その方向性（研究者としての将来性）を見極めるための問題となっています。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。